



Before



リサイクル用「金属くず」と「電線くず」の回収場所が隣接していて、しかも同色のドラム缶だったため、分別ミスが多発していた。また、再分別を手作業で行うため、切創などの災害懸念があった。

After



以下のように改善した結果、分別ミスが大幅に減少した。

- ① 写真を活用し、ひと目で分かるようにした。
- ② リサイクル品の種類ごとに背景色を色分けし、壁表示とドラム缶表示を同一にした。
- ③ マグネットシートを活用し、ドラム缶交換時に貼り替え可能とした。

安全表示で

人づくり

ビーポップを活用した安全活動事例

第4回

住友化学(株)【先端材料開発研究所】

会社概要

- 本社所在地：東京都中央区 ● 研究所 所在地：茨城県つくば市
- 会社設立：1925年 ● 連結従業員数：33,586名(2020年3月31日現在)
- 事業内容：石油化学部門、エネルギー機能材料部門、情報電子化学部門、健康・農業関連事業部門、医薬品部門、その他

既製品は掲示の瞬間から風化が始まるが 皆で考えた表示は思いが続く

茨城県つくば市にある住友化学(株)の先端材料開発研究所では、次世代のディスプレイや照明に用いられる高分子有機EL、セキュリティやヘルスケア分野への応用が期待される有機光センサーなどの新素材の研究、開発を積み重ねていきます。同研究所では「安全をすべてに優先させる」という同社共通の基本理念のもと、日頃から地道な安全衛生活動を行ってきました。その成果は、1989年の開所以来30年以上にわたり、社員・派遣社員による休業災害ゼロの継続という結果となって表れています。

そこで今回は、同研究所技術室の皆さんと所長の内田義男さんに、安全衛生の取り組みと、人づくりコンテストへの思いなどについてお話を伺いました。

連続無災害を継続するため 常に新しい活動にチャレンジ

同研究所では、安全活動において常に新しい試みをしています。例えば、危険感受性の向上への取り組みとして、2016年から実施している安全体感研修に、昨年度からVRの活用を始めました。「五感を使って危険を疑似体験できるので、経験として記憶に残り危険感受性が向上するだけでなく、安全行動の習慣化にも役立つので受講者から大変好評です」とチームリーダーの木田さん。また、部署ごとに差のあった活動の質

を底上げするため、入社2～3年目の社員に対して他部署の活動を学習する機会を今年度から設定しました。「若手には部署をまたいだ情報を得る機会が少なく、他部署の取り組みを生かし切れていないと思います。そこで、内部監査に同行し、他の部署の取り組みを学習してもらおうという、所長の発案です」と西山さん。

この他にも、それまでバラバラだった表示標識を統一して写真入りの詳細なガイドラインを作る、作業場所へのKYポイントカード設置や使用保護具の表示でヒューマンエラー防止を図るなど、多彩な取り組みを展開しています。

分かりやすいため 協力会社にも好評な受賞作

同研究所では、昨年初めて「安全表示人づくりコンテスト」に応募、優秀賞を受賞されました。受賞作について岩瀬さんは、「分別ミスがあると協力会社にお願いして再分別を行うのですが、金属片で手を切るなどの災害が発生する懸念がありました。今回の改良後は、分別ミスはほとんどなくなり、協力会社にも大変喜ばれています」といいます。

木田さんは「既製品は貼り終えるとすぐに風景として溶け込んでしまうのですが、自分たちで議論しながら作った表示には思いが込められているので風化



住友化学(株)先端材料開発研究所のみなさん
左から西山さん、岩瀬さん、内田所長、木田さん

しないと感じました。今後はより多くの所員の意見を交えながら、さらに活発な活動を展開していきたいですね」と語ります。

「安全表示は、職場の中で目に入る形で安全を喚起してくれる重要な存在です。それを見ているだけで安全に対する感覚が向上します。今までも取り組みを進化させてきましたが、ゴールがあるわけではないので、今後も安全の基本を大切にしながら改善し続けて欲しいと思います」と内田所長は期待を込めます。安全表示はこれからも、同研究所の安全向上に役立つ存在であり続けるに違いありません。



同研究所では、転倒災害防止にも力を入れている
【左】ポケナンを励行するための注意表示
【右】階段を人が通ると点灯する人感センサーライト



廊下突き当たりや設置してある衝突防止のための
広角ミラー

お問い合わせ

マックス株式会社

オフィスプロダクツ営業部

安全表示・人づくりコンテスト事務局

人づくりコンテスト

検索

TEL:03-3669-8108(代) Mail:anzen@max-ltd.co.jp